東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2007年11月2日

# 預言者の子孫への愛

親愛なるムスリムの皆様。辞書的な意味では「家の人々」という意味になるエフリ・バイトという表現は、イスラームの最初期から現在まで、ただ預言者ムハンマドの家族とその血統と言う意味で使われてきました。従って預言者ムハンマドの家の人々、妻、子供たち、孫たち、特にアリー、ファーティマ、ハサンやフセインを含んでいるのです。

部族連合章第３３節では、「家の者たちよ、アッラーはあなたがたから不浄を払い、あなたがたが清浄であることを望まれる。」と述べられ、彼らを命令への服従へと呼びかけ、それによって彼らが罪から清められることを望まれている、ということを明らかにされたのです。

親愛なるムスリムの皆様。天国の女性達の王、聖ファーティマは、預言者ムハンマドの高潔な血統を受け継いだ一番下の娘でした。ファーティマは預言者ムハンマドの躾けの元に育てられ、あらゆる面でその父を模範としたのです。彼女を見た人々は、単に外見だけではなく、慎む深さや気前のよさ、慈しみといったような道徳的な特徴においても、彼女をその父に似ているとしていました。

篤信、イフラース、誠実さ、奉仕、そしてさらに多くの資質によって、最初のムスリムの若者となる栄誉を与えられた聖アリーは、ムスリムの若者の模範でした。アリーは教えへの奉仕においていつでも先頭であり、この世的な利益に関わる場合にはいつでも最後尾にいました。

預言者ムハンマドは、共に遊び、胸に抱いて愛され、この世の「二つの花」、来世においては「天国の子供たちの王」と誉め、「アッラーよ、私は彼らを愛しています。あなたも愛してください。」とドゥアーした聖ハサンと聖フセインも、預言者の家の特別なメンバーなのです。

親愛なる兄弟姉妹の皆様。ムスリムは、預言者の家の人々に対し、歴史をとおし今日までずっと、愛情を抱いてきました。文化遺産は、彼らとその精神を具現するシンボル、モチーフなどによって飾られてきたのです。預言者ムハンマドの血を引く人々は王冠のようとされ、彼らへの愛情は集団として私たちを一体化させる要素の一つとなったのです。

イスラーム世界においては、アフマド、ムハンマド、アリー、ファーティマ、ハサン、そしてフセインといった名前が非常によく見られます。その理由は、預言者の家の人々への、私たちの共通した愛情なのです。詩人たちはその美しい感情、美徳、善、徳について彼らの名前を用いて説いてきました。

聖フセインが、政治的な野望を持つ人々のために無残な形で殉教させられたことは、預言者ムハンマドとその家族を愛する全てのムスリムを深く傷つけました。

親愛なるムスリムの皆様。　預言者の家の人々は、疑う余地もなく、預言者ムハンマドをよく知らせること、スンナを今日にまで伝えることにおいて重要な役割を果たしたのです。なぜなら、部族連合章でも述べられているように、預言者の家の人々はクルアーンの啓示を証言し、それが正しく理解され、実現される上で特別な任務を与えられていたからです。アッラーが彼ら皆についてお慶びくださいますように。